

【ねがいましては】

平成19年1月9日

第194号

KYOWA SCHOOL

「足もと」

いじめという言葉が覆ってしまった感のある昨年、マスコミの力には感心させられました。あまり使いたくない単語であるわけで、『ねがいましては』に取り上げるのを躊躇していたように思います。が、『小さな勇気』と自ら言い続けているものとしては触れずにはいられないようです。

もともといじめは以前からあったわけで、ほとんどのお父さんやお母さんは自分の児童・生徒の時代に何がしかのかたちで直面しているものと思われます。いじめの発生場所・・・学校。もちろん社会に旅立ってからでも発生します。それが職場。

その場に共通して存在するもの・・・『競争』。どうしても視野が狭くなりがちな子ども時代に、『競争』は人の気持ちを思いやると言うこととはかけはなれたところに置かれます。競争から連想される言葉・・・勝つか負けるか。運動会でも、〇〇コンクールでも・・・選ばれし者は勝者、それ以外は敗者。皆それぞれのプライドをひっさげて目の前の者を見下したり、また見下されたり・・・。

以前、と言ってももう30年～40年以上も前のような気がします。放課後が唯一上下関係の構築に役立っていた頃、年上のは自然と広い心で年下のはわがままを聞いてあげたり、年下はそのようなお兄さんお姉さんを尊敬の念で見つめていたり、常に助け合う土台作りがなされていたように思います。下町の放課後はあちこちで子どもたちのしゃぐ声が聞こえました。3世代家族が当たり前な家々の食卓では、夕餉の準備に勤しむお母さんの姿が当たり前であったし、家々からは様々な香りが漂っていたように思います。放課後ひとしきり遊んだあとには『温かい夕餉』・・・。安心の場所がそこにはありました。

つまり学校でいじめにあったとしても、家庭がそれを癒してくれる唯一の安心場所だったのです。

鬼子母神の境内に数多く掲げられる絵馬には、「健やかに育ててください」「丈夫な子に育ててください」「家族が健康でいられますように」などと、人としての当たり前な思いやりに満ちた願い事が書かれています。「成績が一番になりますように」「有名大学へ入れますように」などとは一切書かれていません。前者と後者で明らかに違うのは『我欲』が入り込んでいることです。我が子だけが得すればいい、我が子だけが合格すればいい、我が子だけが100点取ればいい・・・。そのどれもが親の『我欲』で満ち溢れています。

学校社会は競争を余儀なく強制させられるところですので、心の未発達な子どもたちは知らず知らず人を傷つけ始めます。未発達な分、良い悪いの判断が上手にできませんので、たとえ悪いことなのだろうと気が付いていても、周りの子が同じようなことをしていれば「ええ、こんなことしてもいいんだ。」となります。これがいじめの出発点。気がつかないうちにいじめている・・・。

よくいじめるほうにもいじめられるほうにも両者問題点があるといえます。いじめる側・・・自分の行動が良いか悪いか『当たり前なものさし』に照らし合わせてください。いじめられる側・・・本当にそう思うのであれば、小さな勇気を持ってあったことを話すべきではないでしょうか。その聞き手役はもちろんお母さん。

その聞き手であるお母さんがきちっとしたものさしを持っていなければ、お子さんは安心して話せるはずはありません。お母さんご自身がご自分の中に宿っている『我欲』に気づき、それを排除し、常に冷静沈着な判断力を持ち合わせていなければ、お子さんとしても話せなくなってしまいます。

つまりお母さま方が近年、子に対してあまりにも迷われているのではないかと、自信をなくされているのではないかと。いじめが大きくクローズアップされる原因の一つが、その辺にもあるような気がいたします。自信を持って子の話を聞いてあげられないのではないかと・・・。いじめられたと思う子はさらに孤立します。孤独の海へ放り出されることとなります。

「おれのかあちゃん、おこらせるとこわいんだ。」「おれのかあちゃん、曲がったことがだいきらいでさ。」などと、『かあちゃん』と呼ばれるお母さん、少なくなっていないませんか。お母さん復権。どうか小さな勇気振り絞って復権してください。

また、私の思う理想の学校像としては（学校でないのと言いたいこと言えるわがまま）、まず助け合うことの大切さを学校入学時よりしっかりと身につける。もちろんそれ以前に家庭内でもしっかりと・・・これは最も大切な人間社会での礼儀です。家庭の中で孫がおじいちゃんやおばあちゃんにしてあげることと同じです。人の価値というものが『成績』で判断されるのではなく『人柄』であるということを認識させる。競争させることにおいて、他人の不幸を望むような心理にさせないよう細心の注意を払う、などなどです。

『こころ』というものがないがしろにされる今、2007年の始まりを迎えた1月、今一度『こころの足もと』をしっかりと固めてみてはと思いますが・・・（私もしっかりとこころの足もとを固めましょう）。

みんながまるで家族のようにお互いを思いやる教室・・・・・・。この一年もこれで発進！